Chingachgook と Magua—クーパーの神義論—

肴　倉　　宏

Chingachgook and Magua: Cooper's Theodicy

Hiroshi Sakanakura

抄　　録

自然とそれを覆う闇は、*The Last of the Mohicans* を構成する重要な要素であるだけでなく、作品のテーマを支える重要な意味も与えられている。自然と闇は、それぞれ、善と悪を象徴的に示している。全知・全能の存在を象徴的に示す Chingachgook は、Uncas の死を通して悪から人間を解放する目的を実現する。Uncas の死は、二つの正義のどちらかを選ばなければならない Tamenund の悲劇性を明らかにすると同時に悪に苦しむ Cora に救いをもたらしている。Uncas の死は、彼の父 Chingachgook を深く悲しませる。苦悩を知る Chingachgook は、Cora の死を悲しむ Munro に共感を示すのである。

キーワード：ジェームズ・フェニモア・クーパー、「モヒカン族の最後の者」、チンガチグック、神義論

(1997年9月1日　受理)

Abstract

The contrast between nature and the darkness covering it constitutes both structural and thematic frames for *The Last of the Mohicans*. Nature symbolizes good while the darkness symbolizes evil. Chingachgook who symbolizes the omniscient and omnipotent One accomplishes his purpose to liberate people from evil through the death of Uncas. Uncas' death reveals the tragic nature of Tamenund who chooses between two types of justice and at the same time brings salvation to Cora who suffers from evil. Uncas' death also causes a great deal of sorrow to his father Chingachgook. Suffering Chingachgook shows compassion to Munro who mourns for Cora.

Key words : James Fenimore Cooper, *The Last of the Mohicans*, Chingachgook, Theodicy

(Received September 1, 1997)

Robert E. Spiller は、*The Last of the Mohicans* (1826) の Chingachgook を高貴なインディアンとみなしている。Spiller は、Chingachgook と共にいる Natty Bumppo と比べなから Chingachgook について次のように述べている。

> in his Indian Chingachgook and in his wilderness scout Cooper has now defined his two types of primitive conduct, the noble and stoic savage and the Christian man of nature, and has given them an epic dimension as part of the American myth upon which Mark Twain and others could draw.[1]

確かに、*The Pioneers* の John Mohegan として描かれている Chingachgook に比べると、*The Last of the Mohicans* の Chingachgook は、Spiller がいうように高貴でストイックなインディアンである。しかし、Chingachgook を闇に覆われた舞台の中で捉え直してみるとどうなるであろうか。Chingachgook を闇に覆われた舞台の中で捉え直してみると、そこには象徴的な意味を与えられた新しい人間像が浮かび上がってくるように思えるのである。そして *The Last of the Mohicans* の最初の 3 章は、Chingachgook を捉え直す上で重要な意味をもってくるように思えるのである。

Cooper は、最初の 3 章で Chingachgook に与えた意味を明らかにするために必要な準備をしている。まず重要なのは、物語の舞台を設定することである。雄大な自然が読者の眼前に展開する。Cooper は、第 1 章の冒頭で自然との戦いが敵対するもの同志の戦いに先立つと述べている。続いて、Cooper は、対決する英・仏両軍の大部隊が広大な森林に飲み込まれている様子を描いて "the forest. . .appeared to swallow up the living mass which had slowly entered its bosom." (15)[2] と述べている。敵・味方両軍を飲み込んでしまう自然の広大さが強調されているのである。

Cooper は、自然の物理的な広大さを強調するだけでない。彼は、自然が象徴的な意味も与えられていることを示そうとする。Howard Mumford Jones は、Cooper のパノラマ的な自然描写が Hudson River School に属すると言われている画家たちの自然描写と共通していることを指摘した上で、両者が描こうとしたことは、"the grandeur of God working in the universe"[3] であると述べている。Cooper は、神が自然を通して自らを啓示するということを示そうとしたのだ。従って、Cooper の描く自然は、それを見る者の心の中に "the awe or humility"[4] をもたらすものなのだ。Cooper の描く舞台を構成する自然は、宗教的な意味を持つ信仰の対象とされるものなのである。

神の啓示としての Cooper の自然は、同時に作品の舞台を構成するもう一つの重要な要素である死と闇の覆うところでもある。それは、英・仏両軍が植民地支配の覇を競いあって死闘を繰り広げている "the bloody arena" (12) でもあるのだ。そして、死体が累々と続く森林地帯は、闇に包まれている。Cooper は、森林地帯を "an impervious boundary of forest" (11) や "the interminable forests" (13) と描き、森の中は光を通さず昼なお薄暗いという。Cooper の作品には、物語が夕方から始まって夜へと進むものが多い。*The Last of the Mohicans* でも冒頭の残照がすぐさま夜の闇にかき消されてしまうことで、森の中はより一層暗さを増す。この点について、Thomas Philbrick は、"almost always

Cooper's protagonists are hemmed in by darkness, mist, or the cover."[5] と述べている。闇に包まれ死体の転がる森は、まるで墓場のような不気味な様子をしているのである。

Cooper は、死臭を漂わす闇を一人のインディアンと結び付けて描いている。読者は、このインディアンの名前が Magua であると知らされるのだが、彼は物語が始まるとすぐに大自然の舞台に登場するのである。夕暮れに Edward 砦に "the unwelcome tidings" (17) をもって現れたこのインディアンは、これからすぐに訪れる不吉な闇の前触れなのである。Cooper は、この男と闇の結び付きを強調する。この男の表情は、闇のように暗い。そればかりか、Magua の表情の暗さは、見る者にただならぬ嫌悪感すら与えている。Cooper は、彼の表情を次のように描いている。

> The colours of the war-paint had blended in dark confusion about his fierce countenance, and rendered his swarthy lineaments still more savage and repulsive, than if art had attempted an effect. (18)

Cooper は、Magua の暗さが顔にぬった絵の具の効果だけによるものではないという。こうして、Cooper は、Magua の表情に浮かぶ暗さがこの男の本質に根ざしていることを暗示している。

Cooper は、物語の進行につれて Magua の本質を読者に明らかにする。そして、彼は舞台を包む闇の性質を明らかにしてゆくのである。Magua は、倫理的に堕落したインディアンとして描かれている。彼は、白人と接触し "the fire-water" (102) を飲むことを覚え、"a rascal" (102) になり下がったのだ。文明と接触し宗教的な意味を与えられている自然との関係を失ったことが、彼の堕落の原因なのである。やがて、Magua は、大虐殺を引き起こした首謀者として読者の前に現れる。第 17 章の William Henry 砦の虐殺の場面は、イギリス軍の将兵とともに婦人や子供までがインディアンに殺された歴史的に有名な事件である。Cooper は、この事件と Huron 族を結び付ける。Huron 族が大量殺戮を行ったのだと言う。そして、Cooper の Magua は、Huron 族を操って彼等にイギリス軍の将兵と婦人や子供を襲撃させ虐殺させたのである。森林地帯に転がる死体は、血に飢えた Magua の暗躍の結果なのである。Magua は、"the dusky savage the Prince of Darkness, brooding on his own fancied wrongs, and plotting evil" (284) なのである。Magua は、悪の化身なのだ。大自然という舞台は、倫理的腐敗を隠蔽し悪の跳梁を許す象徴的な意味を帯びた闇に覆われているのである。

Cooper は、まず初めに物語の舞台を設定した。宗教的な意味が与えられた自然は、背後におしやられその表面を倫理的腐敗を隠す闇が覆っている。Magua が君臨する舞台は、James Franklin Beard がいうように "his [man's] fallen state"[6] なのである。こうして、Cooper は、これから闇に覆われた舞台で起こる事柄にまつわる問題の中心が悪の認識に関するものであることを暗示するのである。

Chingachgook が、倫理的腐敗を隠し悪の跳梁を許す闇に覆われた舞台に登場する。彼は "the grandfather of nations" (33) と言われている Mohican 族の族長なのである。Mohican 族は、かつて他の部族を征服しアメリカ大陸を支配していた部族なのである。し

かし、時の経過と共に Huron 族に覇者の座を奪われ、今は、Chingachgook とひとり息子の Uncas を残すのみとなったのである。彼は、アメリカ最古の部族の生き残りなのだ。しかし、Chingachgook は、消滅してゆく部族の生き残りとして重要であるだけでない。彼は、象徴的な意味も与えられている。Chingachgook に与えられている象徴性は、彼の名前を通して示されている。Natty Bumppo は、白人とインディアンの名前の付け方を比較しながら Chingachgook の名前について次の様にいう。

> I'm an admirator of names, though the Christian fashions fall far below savage customs in this particular. The biggest coward I ever knew was called Lyon; and his wife, Patience, would scold you out of hearing in less time than a hunted deer would run a rod. With an Indian it is a matter of conscience; what he calls himself, he generally is—not that Chingachgook, which signifies big sarpent, is really a snake, big or little; but that he understands the windings and turnings of human natur, and is silent, and strikes his enemies when they least expect him. (57)

Natty Bumppo は、白人の名前は体を表さないがインディアンの名前は体を表しているという。彼は、Chingachgook という名前が人間性の中に潜む悪を理解し気付かれないうちに悪を打てる知恵を持つ人物であることを表しているというのだ。Chingachgook は、闇に覆われた舞台の中で Magua を悪の化身と認識できるだけでない。Chingachgook は、悪を克服することができる全知・全能の存在であることが暗示されている。

Chingachgook に与えられている象徴性は、第 12 章の Chingachgook と Magua の戦いの場面を通してさらに示されている。悪の化身 Magua は、Duncan Heyward、Munro 姉妹、そして David Gamut 達を虜にして "one of those steep, pyramidal hill" (100) と描かれた丘の上で休んでいる。Magua が急峻な丘を休憩の場所として選んだのには、彼の戦略的な判断が働いているのだ。彼は、丘を難攻不落の要害にできると判断したのだ。しかし、Chingachgook は、Uncas や Natty Bumppo と共に Magua の予測もつかないかたちで Magua の率いる Huron 族を急襲するのだ。そして Magua と Chingachgook の戦いだけが、最後まで続くのだ。Cooper は、二人の戦いを次のように描写している。

> The death-like looking figure of the Mohican, and the dark form of the Huron, gleamed before their eyes in such quick and confused succession, that the friends of the former knew not where nor when to plant the succouring blow. It is true, there were short and fleeting moments, when the fiery eyes of Magua were seen glittering, like the fabled organs of the basilisk, through the dusty wreath by which he was enveloped, and he read by those short and deadly glances, the fate of the combat in the presence of his enemies; ere, however, any hostile hand could descend on his devoted head, its place was filled by the scowling visage of Chingachgook. In this manner, the scene of the combat was removed from the centre of the little plain to its verge. The Mohican now found an opportunity to

make a powerful thrust with his knife; Magua suddenly relinquished his grasp, and fell backward, without motion, and, seemingly, without life. His adversary leaped on his feet, making the arches of the forest ring with the sounds of triumph. (113－114)

Chingachgook は、悪の化身 Magua の戦略的判断力を遙かに凌ぐ知恵を用いて彼を圧倒してしまうのだ。Chingachgook は、悪を根絶できる全知・全能の存在なのである。

しかし、Chingachgook の勝利を見ていた Natty Bumppo が Magua に止めを刺そうとして鉄砲を振りおろすと、Magua は Natty Bumppo の一撃をかわして逃げてしまうのである。Cooper は、その様子を次のように描いている。

But, at the very moment when the dangerous weapon was in the act of descending, the subtle Huron rolled swiftly from beneath the danger, over the edge of the precipice, and falling on his feet, was seen leaping, with the single bound, into the centre of a thicket of low bushes, which clung along its sides. (114)

Magua は、転がって Natty Bumppo の一撃をかわして逃げてしまう。Chingachgook の圧倒的な力の前で勝ち目がないと判断した Magua は、死んだふりをして逃げる機会を伺っていたのだ。Chingachgook が悪を克服できる全知・全能の存在であることは、すでに述べた。そのような存在である Chingachgook が、悪の化身 Magua にまんまと逃げられてしまうのだ。全知・全能の存在である Chingachgook が、死んだふりをして逃げようとする Magua の邪悪な企みを見抜けなかったのであろうか。見抜けなかったとすれば、Chingachgook は、全知でないということになる。あるいは、彼は、Magua の邪悪な企みを見抜いていたけれど何もできなかったのであろうか。その場合には、Chingachgook は、全能でないということになる。彼は、悪に対して無力なのであろうか。それとも、全知・全能な Chingachgook が、悪の化身 Magua の暗躍を許したのには深い意味が隠されているのであろうか。

Chingachgook の全知・全能性を考える上で重要な手がかりを与えてくれるのは、Natty Bumppo の言葉である。Natty Bumppo は、Magua が逃げたのを見た後で次の様にいう。

'T was like himself!. . .a lying and deceitful varlet as he is! An honest Delaware now, being fairly vanquished, would have laid still, and been knocked on the head, but these knavish Maquas cling to life like so many cat–o'–the mountain. Let him go—let him go; 'tis but one man, and he without rifle or bow, many a long mile from his French commerades; and like a rattler that has lost his fangs, he can do no farther mischief, until such time as he, and we too, may leave the prints of our moccasins over a long reach of sandy plain (114)

Natty Bumppo は、逃げた Magua を毒を抜かれたガラガラ蛇に例えている。Chingachgook に負けた Magua は、毒を抜かれた蛇のように無力な存在なのである。悪の化身 Magua の逃亡は、Chingachgook の全知・全能性を疑う事柄ではなく、むしろ、彼の全

知・全能性を明らかにする事柄なのである。Magua に対して無力でないとすると、Chingachgook が悪の暗躍を許したことに深い意味が隠されていることになる。

Natty Bumppo の言葉が、やはり、悪の暗躍を許した理由を考える手がかりを与えてくれる。Natty Bumppo は、Chingachgook が Magua を圧倒し直ちに根絶しなかったことを不満に思いながら次の様にいう。

> These Iroquois are cunning, but they outwitted themselves when they placed their fire-arms out of reach; and had Uncas, or his father, been gifted with only their common Indian patience, we should have come in upon the knaves with three bullets instead of one, and that would have made a finish of the whole pack; yon loping varlets, as well as his commerades. But 'twas all fore-ordered, and for the best! (116)

Natty Bumppo は、Magua 達を一網打尽に殺せなかったことを悔しがっている。しかし、同時に、彼は、Magua の暗躍が前もって定められていたことを認めている。しかも、彼は、Magua の存在が善を成すために用いられるのだともいうのである。全知・全能である Chingachgook が悪の化身 Magua の暗躍を許したのは、彼が始めから悪を用いて善を成すという計画を胸に秘めていたからなのである。

Chingachgook の悪を用いて善を成すという計画は、Uncas と深い係わりをもっている。Chingachgook と Uncas は、父と子の間柄である。しかし、二人の関係は、血縁関係を意味するだけではない。彼等の関係は、象徴的な意味も与えられている。Chingachgook は、全知・全能の存在を象徴的に表していた。彼と同様に、Uncas も象徴的な意味を与えられている。Uncas は、メシヤなのである。(7) メシヤ Uncas の闇に覆われた舞台への登場は、彼の父 Chingachgook の呼びかけに答えたものなのである。Uncas が登場する第3章に注目してみよう。第3章で Chingachgook と Natty Bumppo が語り合っている。Natty Bumppo は、かつてアメリカ大陸の支配者であった Mohican 族がどうなったのかを Chingachgook に尋ねる。彼の質問に対して Chingachgook は、次のように答える。

> Where are the blossoms of those summers!—fallen, one by one: so all of my family departed, each in his turn, to the land of spirits. I am on the hill-top, and must go down into the valley; and when Uncas follows in my footsteps, there will no longer be any of the blood of the Sagamores, for my boy is the last of the Mohicans. (33)

Chingachgook は、Mohican 族が一人一人死んでいったと語る。そして彼は、Uncas が死ねば Mohican 族は消滅するだろうという。Chingachgook は、Uncas の登場する直前に彼にふりかかる運命を予告しているのだ。Uncas は、闇に覆われた舞台へ登場する前に死ぬべき運命を背負わされているのである。実際、彼は、第32章で悪の化身 Magua によって殺されるのである。Chingachgook は、最初からメシヤ Uncas の死を通して計画を実現しようとしているのである。

Uncas の死は、第 3 章で Chingachgook によって予表され第 32 章で悪の化身 Magua によって実現されているばかりでない。Uncas の死には、Tamenund も深く係わりをもっているのである。Tamenund は、“this wise and just Delaware”（293）として部族の枠を越えて尊敬されている Delaware 族の最長老なのだ。思慮深く公平な Tamenund が裁判官として闇に覆われた舞台に現れるのである。彼の登場には、悪の化身 Magua が絡んでいるのだ。Magua は、Delaware 族に一時的に頂けていた Cora を返してくれと Tamenund に要求する。裁判官としての Tamenund は、Magua が Cora に対して“a conqueror's right”（312）を持っているか、それとも、Uncas が彼女に対して権利を持っているのかを裁くことになる。この裁判には、二つの正義が複雑に絡み合っているのだ。その一つは、権利に関する法的・社会的正義である。もう一つは、それとは次元の異なる宗教的・倫理的正義である。善・悪に関する宗教的・倫理的正義と権利に関する法的・社会的正義が分かちがたく結び付いているのである。Tamenund は、メシヤ Uncas が悪の化身 Magua の権利を否定してくれるものと期待している。しかし、裁判の審理の過程で彼は、Uncas が Cora に対して権利をもっていないことを知る。この事実を知ったとき、Tamenund は困難に直面するのだ。彼は、法的・社会的正義か宗教的・倫理的正義かのどちらかを選ばなければならないのである。Tamenund が Magua の権利を認めなければ、Tamenund は社会を支えている法的な秩序を否定し無法状態を招くことになる。逆に、Magua の権利を認めれば、宗教的・倫理的正義を無視して彼は悪の化身 Magua の仕掛けた罠に陥ってしまうことになる。どちらを選んでも彼は、その結果に苦しまなければならないのである。彼は、次元の異なる二つの正義のどちらかを選ばなければならない悲劇的な人間なのである。Tamenund は、困難な選択を回避することなく“Huron, depart.”（313）という。彼は、法的・社会的正義を選ぶのだ。彼は、Magua の罠にはまり悪に蝕まれていることを自覚する。Tamenund の裁判の結果は、メシヤ Uncas を悪の化身 Magua との最終的な戦いに駆り立てることになる。そして Uncas は、Magua から Cora を解放しようとして殺されるのだ。悪に蝕まれている Tamenund は、Uncas を死に追いやったのだ。Uncas の死は、悪に蝕まれた Tamenund の悲劇性によってもたらされているのである。Uncas の死は、人間の避けがたい悲劇性を明らかにしているのである。[8]

Uncas の死は、悪に蝕まれた人間の悲劇性を明らかにするだけでない。彼の死は、同時に、悪に蝕まれた人間の負っている傷を癒し人間性を回復させる意味をも与えられている。Uncas と Cora の係わりに注目してみることにする。Cora は、“The tresses of this lady were shining and black, like the plumage of the raven.”（19）と描かれている。彼女の黒髪は、彼女が白人の父 Munro と黒人の血を引く母との間に生まれた混血の娘であることを示している。しかし、彼女の黒髪は、人種的特徴を表しているだけではなく象徴的な意味も与えられている。彼女の黒髪は、悪の化身 Magua の暗さに象徴的に示された悪に生まれながら捕らえられていることを物語っている。実際、Cora は、自分が悪に蝕まれていることを自覚している。メシヤ Uncas は、Cora の黒髪に象徴的な意味を読み取るのである。彼は、Cora の黒髪の背後に悪の化身 Magua が潜み人間性を蝕んでいること

を見抜くのだ。Uncas は、悪に捕らえられている Cora の苦悩を理解し彼女を Magua から解放しようとする。Cora は、Magua に殺される直前に天を仰いで "I am thine! do with me as thou seest best!" (337) と神に祈りを捧げている。Uncas は、Cora の祈りを聞きそれに答えるように現れる。そして彼は、Magua から Cora を解放しようとして殺されるのだ。Cora の死は、悪に蝕まれ人間性を喪失した絶望的な死ではない。彼女の死は、メシヤ Uncas の死によって悪の呪縛から解放され魂の負った傷を癒され人間性を回復した死なのである。Cora は、救いを得ているのである。Uncas の死は、悪に蝕まれている人間に救いをもたらしているのである。(9)

Chingachgook は、悪を用いて善を成すという計画を Uncas の死を通して実現している。Uncas の死は、悪に蝕まれた人間の避けがたい悲劇性を明らかにしている。同時に、彼の死は、人間を悪から解放している。彼の死は、悪に蝕まれた人間への裁きであると同時に救いでもある。Chingachgook は、Uncas の死を通して救済計画を明示しているのである。

Chingachgook は、救済計画を実現するため自ら大きな犠牲を払っている。彼は、最愛のひとり息子 Uncas を犠牲にしているのだ。第 19 章の council-fire 終了直後の場面は、愛情に満ちた Chingachgook と Uncas の親子関係を示している。council-fire が終わり Natty Bumppo が寝てしまうと、Chingachgook と Uncas は、二人だけになる。Cooper は、二人の様子を次のように描いている。

> Left now in a measure to themselves, the Mohicans, whose time had been so much devoted to the interests of others, seized the moment to devote some attention to themselves. Casting off, at once, the grave and austere demeanour of an Indian chief, Chingachgook commenced speaking to his son in the soft and playful tones of affection. Uncas gladly met the familiar air of his father, and before the hard breathing of the scout announced that he slept, a complete change was effected in the manner of his two associates. It is impossible to describe the music of their language, while thus engaged in laughter and endearments, in such a way as to render it intelligible to those whose ears have never listened to its melody. The compass of their voices, particularly that of the youth, was wonderful; extending from the deepest bass, to tones that were even feminine in softness. The eyes of the father followed the plastic and ingenious movements of the son with open delight, and he never failed to smile in reply to the other's contagious, but low laughter. While under the influence of these gentle and natural feelings, no trace of ferocity was to be seen in the softened features of the Sagamore. His figured panoply of death looked more like a disguise assumed in mockery, than a fierce annunciation of a desire to carry destruction and desolation in his footsteps. (119−200)

二人だけになると、Chingachgook は冷ややかで厳しい態度からは想像もできないほどの

愛情に満ちた言葉で Uncas に語り掛けている。Uncas も愛情に満ちた言葉で父に答える。しかも、二人の会話は、音楽的に美しく響くのだ。Chingachgook は、Uncas を喜びと慈しみをたたえた目で見ている。人前では二人は、言葉を交わすこともないし笑うこともない。二人は、厳格な父と父に忠実にしたがう息子なのである。しかし、厳格に見える二人の間柄の背後には、愛情に満ちた父と子の強い絆があるのだ。Chingachgook は、Uncas を掛け替えのない存在として愛しているのである。Chingachgook は、救済計画を実現するため掛け替えのない存在 Uncas を犠牲にしているのである。

Chingachgook は、Uncas の死を通して孤独感と悲しみを味わうのである。物語の最終章の第 33 章を見てみることにする。Uncas の亡骸を前にして Chingachgook の口から "a low, deep sound" (345) が漏れてくる。それは、"the monody of the father" (345) なのである。Chingachgook は、Uncas の死を悲しんでいるのだ。そして彼は、葬儀に参列してくれた Delaware 族に次のように語り掛ける。

> Why do my brothers mourn!. . . why do my daughters weep! that a young man has gone to the happy hunting grounds! that a chief has filled his time with honour! He was good. He was dutiful. He was brave. Who can deny it? The Manitto had need of such a warrior, and he has called him away. As for me, the son and the father of Uncas, I am a 'blazed pine, in a clearing of the pale-faces.' My race has gone from the shores of the salt lake, and the hills of the Delawares. But who can say that the serpent of his tribe has forgotten his wisdom! I am alone— (349)

Chingachgook は、愛する息子を失った悲しみと一人残された孤独感を味わっているのである。彼は、息子に先立たれた父親の不条理を噛みしめているのだ。全知・全能の存在である Chingachgook は、Uncas の死を通して苦悩を体験するのである。

苦悩を体験した Chingachgook は、Munro の苦悩を理解し彼に共感することができるのである。William Henry 砦の司令官 Munro は、部下として仕えていた Magua が Munro の定めた規則を破ったために罰したのだ。そのため Munro は、Magua から復讐を受けるのだ。彼は Magua の暗躍のせいで William Henry 砦を失う。砦を明け渡した直後に Magua の率いる Huron 族に襲撃され、Munro は部下の将兵とその家族を失う。彼は、砦の司令官としての地位を失うだけでなく軍人としての名誉も失うのだ。その上、彼は、砦の陥落直後の混乱の中で Magua によって娘たちを誘拐される。砦の中で再会したばかりの Munro 一家は、引き離され幸福を踏みにじられる。さらに、Magua に連れ去られた Cora は、殺されてしまうのだ。Munro は、地位も名誉も愛する娘までも失うのだ。彼は、Magua のため苦難を一身に背負わされる人物なのだ。[10] 愛する息子 Uncas を失った悲しみを体験した Chingachgook は、Munro の悲しみを理解することができるのである。最終章の第 33 章では、Uncas を失って悲しむ Chingachgook と Cora を失った Munro がともに描かれている。しかし、Chingachgook は、Munro に慰めや励ましの言葉を掛けることはない。けれども、彼は、悲しみに沈む Munro のそばにいるのだ。Ching-

achgook のこの行為は、苦悩を理解し共感する彼の姿勢を表しているのである。苦悩を体験した自らの姿を示すことで Chingachgook は、悲しみに耐える力と慰めを与えようとしているのである。

Chingachgook は、全知・全能であるばかりでなく苦悩を知る存在でもある。Chingachgook は、全知・全能の存在として描かれている。彼は、悪を用いて善を成すという当初からの救済計画を Uncas の死を通して実現する。しかし、彼は、Uncas の死を通して悲しみと孤独感を味わう。彼は、苦悩を体験する。彼は、この体験から苦悩している人々のそば近くにいて理解と共感を示す。人前では厳格で近付きがたい印象を与える全知・全能の存在 Chingachgook は、実は、人間の近くにいる存在でもある。Cooper が Chingachgook を描いたのは、苦悩を知る全知・全能の存在であればこそ人間の苦悩を理解し共感することができることを強調したかったからであろう。

注

(1) Robert E. Spiller *James Fenimore Cooper* (Minneapolis: University of Minnesota Press. 1965) 18

(2) James Fenimore Cooper *The Last of the Mohicans; A Narrative of 1755* (Albany: State University of New York Press. 1983) 本論文中の作品からの引用は、全てこの版による。なお、( ) 内の数字は、そのページを示す。

(3) Howard Mumford Jones *History and The Contemporary: Essays in Nineteenth-Century Literature* (Madison: The University of Wisconsin Press, 1964) 72

(4) Donald A. Ringe *The Pictorial Mode: Space and Time in the Arts of Bryant, Irving and Cooper* (Lexington: The University of Kentucky, 1971) 41

(5) Thomas Philbrick "*The Last of the Mohicans* and the Sounds of Discord" *American Literature*, 43 (1971) 31

(6) James Franklin Beard "Afterward," *The Last of the Mohicans* (New York: New American Library, 1962) 424

(7) 拙論「時間の中心 Uncas--- クーパーの描いたメシヤ像 ---」大阪女学院短期大学紀要第 19 号 (1988) 87—103

(8) 拙論「Tamenund の役割」大阪女学院短期大学紀要第 26 号 (1996) 85—94

(9) 拙論「Cora Munro の死の意味」大阪女学院短期大学紀要第 24・25 号 (1995) 77—87

(10) 拙論「Munro と Natty Bumppo」大阪女学院短期大学紀要第 27 号 (1997) 63—72